

序論)

神様は、イザヤ書を通して何度も裁きのメッセージを語っておられます。今日の箇所は、虐殺されるとか、大虐殺をされるとか、そのように語られている箇所なので、イザヤ書にある裁きのメッセージの中でも特に厳しいメッセージとなっています。

ただし、この厳しい裁きのメッセージは1節の「聞け」という命令と、17節の「読め」という命令に挟まれていることに注目していただきたいと思います。

神様はただ、怒りに任せて人々を震え上がらせるために、この厳しい裁きのメッセージを語っておられるのではなく、最終的には【主】の御声を聞き、【主】のみことばを読むものとさせるために、この厳しい裁きのメッセージを語っておられるというのです。では、その【主】のメッセージに目を向けていきましょう。

1) すべての者へのメッセージ

まずは1節

**34:1** 国々よ、近づいて聞け。諸国の民よ、耳を傾けよ。地とそこに満ちているものよ、聞け。世界とそこから生え出たすべてのものよ。

今日の箇所は5節からエドムに対する裁きの箇所となっていますが、実際はこのメッセージはエドムだけではなく、世界に満ち、世界から生まれてきた全ての者に対して語られている者となっています。

【主】はさばきを受けるべきすべての者たちに対して、この厳しいメッセージを「聞け！」と命じておられるのです。

みなさん、私達はイザヤ書を読んでこのような裁きのメッセージを読んでいくといい加減うんざりします。恐らくイザヤ書を全部読もうと思っても、あまりにさばきのメッセージが多いから途中でやめてしまう人が多いのではないのでしょうか。

でも、【主】はそんな私達に対して、このメッセージを聞け！と命じられるのです。なぜでしょうか。それは【主】が、逆らう者たちに対して恐るべき計画を持っておられるからです。2-4節を読んでみましょう。

**34:2** 【主】がすべての国に向かって激しく怒り、そのすべての軍勢に向かって憤り、

彼らを聖絶し、虐殺されるにまかされたからだ。

34:3 彼らの殺された者は投げ捨てられ、その死体は悪臭を放ち、山々はその血によって溶ける。

34:4 天の万象は朽ち果て、天は巻物のように巻かれる。その万象は枯れ落ちる。ぶどうの木から葉が枯れ落ちるように。いちじくの木から実がしぼんで落ちるように。

ここで神様は、【主】に逆らう者たちに対して激しい怒りを持っておられ、彼らが虐殺されるようにするよ。とそう言われています。要は、完全にこの裁かれるべき人たちを見捨てるということです。【主】が一切の哀れみをかけないようにするということです。その結果、彼らはどのような状況になるかということ、死体が悪臭を放ち、その血によって山々が溶けると書かれています。

私達、富川福音教会では今は、この上の駐車場からこの2階の礼拝堂まで多くの人が直接は行ってきますが、一階にも元々ついていた玄関があります。そして、その玄関の前は舗装されていない道がありますが、ちょっと前まではそこには大きな溝ができていました。雨の日に一階玄関側にある家々からの排水や、雨水が流れて、その玄関前の土を削り取ってしまったからです。水ってというのはそうやって地面を削り取ったり、山を崩してしまったりするような力があります。

【主】がここで語られるような裁きをなさるとき、【主】は逆らう者が虐殺され、その血が山を削り取ってしまうぐらい、大量に流れるようにされるのだと言われています。しかも、この時には地上だけが被害を受けるのではなく、天の万象も朽ち果ててしまうと【主】は言われています。ここでいう天というのは神さまがおられる天国のことではなくって、この世界すべてのことです。「巻物が巻かれる」というのは物事が終わることを意味していますし、「ぶどうの木から葉が枯れ落ちる」というのもいのちを失ってしまうことを意味しています。

つまり、【主】がその怒りをもやしてこの世をさばく時、逆らうものたちの血は大量にながれ、世界中のいのちが失われて、世界そのものが終わるのだ！ とそう【主】は言われているのです。

なぜ、神様はそのように酷いことをされるのでしょうか。今は、クリスマスの中で、神様が私達を愛してくださっていると、盛んに教会では語っていますが、なぜ、そのような愛の神様が、このような厳しい裁きを計画されているのでしょうか。

それは一重にこの裁きが【主】の復讐であり、神の民の仇討ちだからです。

## 2) エドムに代表される【主】のさばき

5節からは神様に逆らう民の代表としてエドムに対する裁きが語られています。

34:5 「まことに、天でわたしの剣は血に浸されている。見よ。これがエドムの上に、わたしが聖絶すると定めた民の上に下る。」

34:6 【主】の剣は血で満ち、脂肪で肥えている。子羊とやぎの血、雄羊の腎臓の脂肪で。【主】がボツラでいけにえを屠り、エドムの地で大虐殺をされるからだ。

34:7 野牛は彼らとともに、雄牛は荒馬とともに倒れる。彼らの地には血が染み込み、その土は脂肪で肥える。

34:8 それは【主】の復讐の日であり、シオンの訴えのために仇を返す年だからだ。

【主】に逆らう者たちに対する裁きが、まさにエドムの上に降るということが語られています。ではなんでエドムが【主】に逆らう者の代表とされているかということ、エドムは元々ヤコブのお兄さんエサウのことです。先々週の子どもメッセージの時にエサウのことを話しましたが、エサウは神様の祝福を軽んじた人物でした。だから、長男として祝福される権利を、目先の美味しいスープにつられて手放してしまったのです。神様の祝福を軽んじるということは、神様を軽んじるということです。そして、その神様を軽んじたエサウの子孫たちは、エドムとして【主】の民であるイスラエルにことごとく敵対視、彼らを憎みつづけてきたのです。

だから、神様はそんなエドムに復讐をし、イスラエルの仇討ちをするのだと言われていているのです。6節では、エドムが神様の裁きによって殺される様子を、生贄が祭壇で殺されて、その脂肪とか、血とか、腎臓が神様のものにされる様子に照らし合わせた表現になっています。なぜ、そのような表現になっているかというと、祭壇で生贄が殺されるというのは、基本的には、人が犯した罪の報いとして生贄が代わりに殺されるからです。

つまり、神様は人々が神様に逆らい、【主】の民を苦しめた罪の報いを動物の生贄ではなく、その人々に直接下す。ということをここで表現しているわけです。

そして、そのような裁きの大虐殺が行われた後、エドムはどうなるかというと、9節 10節

34:9 エドムの川はピッチに、その土は硫黄に変わる。その地は燃えるピッチになる。

34:10 それは夜も昼も消えず、その煙はいつまでも立ち上る。そこは代々にわたって廃墟となり、もうそこを通る者はだれもいない。

ピッチというのは何かということ、石油やタールなどが分解してできる黒っぽい粘り

気のある液体のことで、この液体は非常に燃えやすく、一度火がついたらあっという間に燃え広がる特性を持っています。

つまり、神様の裁きがなされたそのエドムの地は、ピッチと硫黄が燃え続けているような、まさに地獄を思わせるようなそのような状態になるのだ。と【主】は言われています。

そして、【主】の裁きがなされた結果はそれだけではなくって11節から15節には、汚れた動物とか、汚れた霊的存在が住む場所となるということが書かれています。

この箇所にてでくる ふくろう、みみずく、ジャッカル、ダチョウ、山犬というのは、旧約聖書で汚れた動物としてあつかわれているものだし、野やぎとか、夜の鳥・・・これはコウモリのことです。そして、蛇、鳶というのは、霊的に汚れた存在、悪霊とか、悪魔とか、偶像とか、そうゆうものを象徴する動物です。

つまり、【主】のさばきがなされたその地は神様から完全に見捨てられ、火がずっと燃え続ける地獄みたいな状況で、そこには汚れた動物や、汚れた霊的な存在が跋扈しており、当然、そこでは人間が王権などを主張することはできない。人の手には負えない地獄に変わるのだ。と。そう【主】はいわれているのです。

まさに、【主】に逆らうものが裁かれて永遠に住まうところは、このようなどころなのです。

今は、人がこの世界を我が物のように好き勝手に扱っていますが、【主】がさばきをなさる時には、自分たちの栄光はすべてなくなって、虐殺され、永遠の地獄にすむことになるということです。

みなさん、そんな結末を受けたいですか？ そのような裁きを受けたい人は一人もいないと思います。だから、【主】は16節のように言われています。

### 3) 【主】の書物を調べて読め

**34:16** 【主】の書物を調べて読め。これらのもののうち、どれも失われていない。それぞれ自分の伴侶を欠くものはない。それは、主の口がこれを命じ、主の御霊がこれらを集めたからである。

「【主】の書物を調べて読め」これは聖書のみことばを適当に読んでおわってはいけません。ってことです。【主】のことばの一つ一つが何を意味していて、【主】がその御言葉を通して何を語っているのかを、ちゃんと調べて読みなさい。みことばを深く探りなさい。という命令です。

時々、聖書は調べなくて良い。解釈しなくてよい。聖霊さまがビビッと教えてくださるそのインスピレーションで理解すればよいのだ。とそういう人がいます。でもそれは大きな間違いです。聖霊様は、私達が聖書のみことばを丁寧に丁寧に、一つ一つのことばを大切に、ちゃんと調べて読む中にちゃんと働いてくださるのです。

寧ろ神様は、最終的な、厳しい、厳しい裁きを語りながら、これの預言を受け取る私達に対して「【主】の書物を調べて読め」と命令されているのです。

なぜならば、この神様のみことばは、一言一句どれも失われぬからです。イエス様も言われましたね。マタイ 5 章 18 節

**5:18** まことに、あなたがたに言います。天地が消え去るまで、律法の一点一画も決して消え去ることはありません。すべてが実現します。

律法っていうのは、要は旧約聖書のことです。【主】のみことばである聖書は、一つの点、一つの画にいたるまで消え去らないのです。だから、私達はどこに点があるのか、元のヘブル語の文字の画はどうなっているのか。そのレベルでしっかりと聖書を調べて読むくらい、神のみことばの単語の一つ一つ、文字の一つ一つが意味していることは何かを注目して読んでいく必要があるのです。

そして、私達はみことばを伴侶とするとき、私達は決して失われぬのです。【主】に逆らう者は徹底的に裁かれますが、【主】のみ言葉を伴侶とするものは失われぬのです。

この聖書のみことばは、【主】の口がこれを命じ、【主】の御霊がこれを集めたからです。だから、みなさん、この聖書 66 巻のことばはたまたま偶然、あつまって聖書になったわけではないですよ。神様が聖霊様によって【主】のみことばを集めてくださったから、旧新 66 巻の文書があつめられ、この聖書が神様のことばとして今の私達に与えられたのです。

そして、17 節

**34:17** 主はこれらのもののためにくじを引き、御手が測り縄で測って彼らに分け与えたので、彼らはとこしえまでもこれを所有し、代々にわたってここに住む。

「主はこれらのもののためにくじを引き」・・・当時、くじを引くということは【主】のみ心を示すということですので、神様は聖書のために【主】のみ心を示されたということです。

「御手が測り縄で測って彼らに分け与えた」・・・測りなわってというのは要は土地の測量をする縄のことです。つまり、【主】の民がどこに住むべきなのかをちゃんと測って、それを聖書の中にちゃんと書いてくださったということです。

だから、【主】の書物・・・聖書をちゃんと調べて読む人は、神様が定められた私達に与えてくださる約束の地、・・・要は神の国を持つものとなり、永遠に【主】が定められた御心の中に住むことができるようになるのです。

## まとめ)

みなさん、ここに明確な対比があります。

エドムのように【主】に逆らうものはすべて、ことごとく虐殺され、いのちをうしない、終りを迎えるのです。その裁きの後に残るのは、絶えず火がもえ、汚れた動物と汚れた存在が住む地獄のような世界です。

対して、【主】のこのさばきの預言を聞き、【主】の書物である聖書のみことばを大切に調べて読む者は、決して失われない神様のご計画をしり、【主】が定められた御心の中にとどまり、【主】は測って私達のために用意された約束の地に永遠に住まうものになるのです。

だから、【主】は「聞け」と初めに命じ、「調べて読め」と最後に命じておられるのです。みなさん、みなさんは【主】のみことばに対してどれほど真摯にむきあっているでしょうか。【主】のみことばの一つ一つ、一点一画をたいせつに読んでいるでしょうか。みなさん、【主】のみことばはちょっと間違っても大体がわかっていたらそれでいいっていうそうゆうものではないのです。

神様は「【主】の書物を調べて読め」と命じられています。これは神様の命令です。みなさんはその命令に逆らうでしょうか。それとも従うでしょうか。

【主】のみ言葉に従い、【主】が定められた約束の地に永遠に住まうものとなりましょう。